

平成23年度

東雄句会・五句抄

橋本 千舟（高4）

（東雄句会選者）

竹林に水湧くところ二輪草

案内図に山の蟻這ひ峠口

玫瑰はまなすや沖に白帆のちらばれり

溪水のひびく断崖葛の花

葉を梳きて枝を揺さ振り松手入れ

大川 善朗（高3）

煮しめの香漂ふ厨三日かな

小豆粒ほどの蕾や梅ふふむ

侘助の花散り尽くし君逝けり

啓蟄を過ぎて俄や普請の音

花盛り凶鑑片手に巡る園

大川 幹生（高5）

同窓の集ひ楽しや春句会

卒業子笑みと涙の別れかな

白障子師が弾く三味のおぼこ節

この年は中吉なりや初みくじ

若葉萌ゆ瞳大きな子の笑顔

北島 禮泉（高6）

花散らす雨と風止み轍跡

菜の花の両脇に咲く牧の道

遠目にもそれと分かりし紫荊はなすお

日が差せば木々の若芽の煌めけり

石楠花や赤き苔のふくらみし

浅間 耿甫（高6）

堂塔をおほふ一山・時雨

明月や山黒黒と静もれり

七五三着飾りし子の大あくび

赤き日の滑り落ち行く冬至かな

雲切れて元朝の日の射し出づる

小浜 一灯（高11）

風誘ひ風に委ねて黄水仙

二夏二冬眠る味噌蔵春の月

一ころも脱ぎてぼうたん崩れけり

ともつな 纜の皆張り詰めて台風来

霜溶けて畑の残り菜立ち上がる

道庭 董（高11）

不揃ひのスケツチの中を春の蝶

鳥の群降りてふくらむ大枯野

ビルの影大川に伸び冬至かな

雪雲に夕日割り込み空動く

晚秋や樹間の灯り隣村

佐々木 秦山（高16）

打つ鋏の刃をはね返し霜柱

さつまいも濡れ新聞に落葉焚き

岩魚獲り子らの歓声木霊して

秋冷やポツンとひとつ青檸檬

Let it be 夜空にこだま十三夜

松岡 素風（17）

豆雛の点とおきたる口の紅
縋れずに白糸の滝流れ落つ
散り紅葉額にのせて羅漢笑む
冬ざれや曝されしもの風に鳴る
傍らに猫と歳時記春を待つ

湊 三奏（高18）

竹ぼうき掃けども掃けど落葉降る
空き瓶に一輪生けて寒椿
雪の道轍伝ひに家路かな
かじかむ息を吹きかけ天仰ぐ
句碑に添ひ可憐に咲きしゆすら梅

渡辺 朴水（高18）

疎なる露店囲ひてまだ一分
青空を残さず捉へ五月川
紅葉路やくねくねくねとくねくねと
雪載せて小江戸埋めたり五百羅漢
笠間燃ゆ银杏落葉の社かな

柏谷 ざぼん（高19）

強風に千切れ飛ぶ八重桜かな
夏椿最初の一花今朝開く
橋の下水面に月の影揺らぐ
とんがりの薦を冠りて寒牡丹
茅葺きの甘味処やざぼん熟れ

夏井 陽一（高21）

元旦の餌場に騒ぐ雀かな
古民家の国旗はためき年始
春遅々と老犬老爺畦を行き
与那国の馬も入り来る海開き
奥鬼怒の落武者の里隠れ滝

平成23年東雄句会 活動報告

23・4・9

東雄句会総会・集合句会

出席者 11名 欠席者 2名

5・10

秋田魁新聞・俳句欄投句・掲載

東雄句会13名参加

11・13～14

吟行旅行 吟行地 湯河原

参加者 8名 欠席者 5名

11・18

秋田魁新聞・俳句欄投句・掲載

東雄句会13名参加

24・3・9

秋田魁新聞・俳句欄投句・掲載

東雄句会13名参加

H24年4月現在会員数13名